

(56)

氏名(生年月日)	ヤマ 山	グチ 口	ミナ 峰	オ 生
本籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第1134号			
学位授与の日付	平成2年11月16日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	バルーンカテーテルを用いた肝静脈造影による左肝静脈の肝内分布形態のX線学的検討			
論文審査委員	(主査) 教授 羽生富士夫 (副査) 教授 小幡 裕, 門間 和夫			

論文内容の要旨

目的

肝動脈, 門脈, 胆管の分岐形態, 肝内分布については現在までに数多くの詳細な研究がなされているが, 肝静脈についての研究は数少なく, 特に肝内分布形態についての詳細な報告はほとんど見られない。そこで著者は, バルーンカテーテルを用いた肝静脈撮影を行い, 主として左肝静脈の肝内分布形態, 流入型式, 変異について検討した。

対象および方法

東京女子医科大学消化器病センターにおいて昭和48年6月より昭和61年2月末までに施行された肝静脈撮影は438例である。この内バルーンカテーテルを用いた肝静脈撮影で, 中肝静脈, 左肝静脈が同時に造影された114症例について, 下大静脈への中肝静脈, 左肝静脈の流入型式を検討した。次いで114例中, 左肝静脈の肝内分岐が明瞭に造影された97症例について, 肝内分布形態の検討を行った。

結果および考察

1. 下大静脈への中肝静脈, 左肝静脈の流入型式

中肝静脈と左肝静脈は, 114例中90例(78.9%)では合流した後下大静脈に流入しているが, この中で11例(9.6%)に共通幹を認めた。114例中24例(21.1%)は中肝静脈, 左肝静脈が各々独立して下大静脈へ流入していた。下大静脈への中肝静脈, 左肝静脈の流入型式は, 中肝静脈, 左肝静脈の合流の有無, 共通幹の有無, 下大静脈へ流入する静脈枝の本数により6型に分類された。中肝静脈, 左肝静脈は, 右前上区域静脈, 中肝

静脈, 左内側肝静脈, 左外側肝静脈, 左上肝静脈に分けて考えることができる。左肝静脈の主幹は左外側肝静脈であるが, 114例中15例(13.2%)に左上肝静脈, 17例(14.9%)に左内側肝静脈を認めた。右前上区域静脈は114例中11例(9.6%)に認めた。

2. 左肝静脈の肝内分布形態

左外側肝静脈は, 原則的には肝内で外側上枝, 外側下枝, 外側前枝の3本の分枝より成る。これら3本の分枝の肝内走行分布は, 下大静脈流入部における左外側肝静脈の分枝数により1分枝型, 2分枝型, 3分枝型と大きく3分類されたが, 各分枝の合流型式, 合流部位により9型28種に分類された。またこの他に, 3分枝以外の分枝型(2分枝型, 多分枝型)が97例中4例(4.12%), 中肝静脈の分枝が左葉外側区域の一部を灌流している症例が1例(1.03%)見られ, 症例により変異が多く認められた。左肝静脈は, 肝鎌状間膜により解剖学的に区分される左葉内側区域と外側区域の境界面を走行しておらず, 肝静脈系よりみると肝左葉内側, 外側区域両方を合わせて1つの肝区域と考えるのが妥当である。

論文審査の要旨

肝動脈、門脈、胆管の分岐形態、肝内分布についての研究に比し、肝静脈についての研究は数少ない。本論文は、バルーンカテーテルを用いた肝静脈造影により、中肝静脈、左肝静脈の下大静脈への流入形式は6型に分類できること、左肝静脈の肝内分布形態が4型に大別できること、さらに肝静脈系より見ると肝左葉内側、外側区域両方を合わせて一つの肝区域と考えることの妥当性を明らかにしたもので学術上価値あるものである。

主論文公表誌

バルーンカテーテルを用いた肝静脈造影による左肝静脈の肝内分布形態の X 線学的検討
東京女子医科大学雑誌 第60巻 第8号
620-626頁（平成2年8月25日発行）

副論文公表誌

- 1) 切除可能であった原発性肝細胞癌はいかにして発見されたか
総合臨床 35 (5) : 945-949, 1986
- 2) 臍、乳頭温存十二指腸切除および臍温存十二指腸切除の各1例の経験
日臨外会誌 48 (12) : 2041-2045, 1987
- 3) 肝腫瘍の診断における脈管内炭酸ガス注入アンジオエコー法の応用
肝・胆・膵 15 (6) : 1129-1132, 1987
- 4) 臍頭十二指腸切除による再切除がきわめて有意義であった胆嚢癌の1例
胆と膵 8 (1) : 93-97, 1987
- 5) 遺残縫合糸により炎症性結腸狭窄をきたした1例
外科診療 30 (4) : 555-558, 1988